

温泉地を舞台にした持続可能な「アート&ウェルビーイング」人材育成プログラム

■プロジェクトリーダー:小金沢智(本学専任講師)
 ■コーディネーター:アイハラケンジ(アートディレクター)、三瀬夏之介(本学教授)、宮本晶朗(本学准教授)



人材育成目標 (目指す人材像・人材が必要な背景・育成対象者)





文化芸術の視点で温泉地独自の地域資源を活用し、訪れる人々の心身の健康回復プログラムを企画・実践できる人材の育成を目標として、「アートマネジメント人材育成」および「新進芸術家等人材育成」の両面から、主に以下の部門を設定する。

人材育成目標 ●アートマネジメント人材育成	
【①総合キュレーション】 地域の歴史文化資源とウェルビーイングを素材としたアート作品等を温泉地にインストールできるノウハウを身につける。	【②アールブリュット】 地域の歴史文化資源とウェルビーイングを素材とした障害者アートを企画・展開できるノウハウを身につける。
【③エキシビション】 地域の歴史文化資源とウェルビーイングを素材とした展覧会を企画運営できるノウハウを身につける。	【④ツーリズム】 各プログラムを統合して温泉地ツーリズムとしてプロモーション展開できるノウハウを身につける。
●新進芸術家等人材育成 地域の歴史文化資源とウェルビーイングを素材として活用する、新たな文化芸術を創造するノウハウを身につける。	
■人材が必要な背景 心身が「良い状態」を保つため、文化芸術の健康への効能が期待されており、「アート&ウェルビーイング」概念の体系化とともに、地域におけるその普及のためのマネジメント人材が求められている。「アート&ウェルビーイング」概念の実社会での普及を通して、「アート&ウェルビーイング」活動自体が地域資源化していくことを目指している。	■育成対象者 美術館・博物館・ホール・図書館等の公共施設・文化施設の職員、自治体の文化芸術・生涯教育・地域振興等担当職員、学校教職員、アーティスト・デザイナー・建築家・工芸作家・編集者・ライター等のクリエイター、広告・イベント・制作等企業の担当者、商店街組合・協議会・商工関係・不動産・店舗等の経営者・個人事業主、保健・医療・福祉関係者、まちづくりや文化芸術活動に関心のある市民・学生など。

令和6年度 育成プログラムの内容 (予算額・取組内容等)

予算額:20,470千円

写真:小金沢智、三浦晴子、高橋勝彦

【①総合キュレーション】 キュレーションのマテリアル:歩行・言葉・映像 蔵王温泉を舞台として、「歩行」「言葉」「映像」をキュレーションの「マテリアル」(素材)と捉える。アーティスト、キュレーター、詩人、デザイナー、ビデオグラファーによるレクチャー、ワークショップ、ディスカッションを通じ、地域の歴史・風土に根差したキュレーションの創造的なありかたを学ぶ。	
【②アールブリュット】 まちのおくゆき ~ことばとからだの温泉ダンスワークショップ~ 多様性の受容・調和をテーマにしなが、障害のある人や、様々な理由で生きづらさを抱える人などを含む、様々な市民がダンスパフォーマンスをはじめとした様々な協働を展開、身体で表現する「ダンスパフォーマンス」のワークショップを実施。「山形ビエンナーレ」期間中に蔵王温泉街を舞台に上演する。	
【③エキシビション】 現代山形考 —山とうたう—「忘れられた歴史の記憶を掘り起こす」 蔵王を舞台として、地域の歴史的背景や、眠ったままの資源、また温暖化などにより生じている現代的な課題などの調査・研究を行い、その成果を新しい郷土史研究として探り、「山形ビエンナーレ」のなかで展覧会として実施する。	
【④ツーリズム】 「ざおうラジオ ~トレッキング&ヒアリング~」蔵王を舞台にした、ツーリズムラジオコンテンツの制作 蔵王温泉とその周辺地区を舞台として、山形で活動する編集者・ライターの方々を講師にお招きし、ツーリズムコンテンツの企画・編集・制作を学ぶ。コンテンツとしての「ことば」、そして、山形蔵王を「あるく」ことをテーマに講座を展開し、「山形ビエンナーレ」に向けてその成果物を発表する。	

育成成果 (令和6年9月時点/採択初年度)

【①総合キュレーション】

キュレーションの MATERIAL: 歩行・言葉・映像

受講生 10 名が、4 回にわたる講座受講を経て、「山形ビエンナーレ」(2024 年 9 月 1 日～16 日)と合わせ、東北芸術工科大学と蔵王温泉の 2 会場で成果発表を実施。言葉(詩)、写真、映像、グラフィックデザイン、イラストレーション、インスタレーションなどさまざまな形で成果が発表された。また、芸術祭開催中、公開講座トークイベント「蔵王温泉を歩いて」も行った。



【②アールブリュット】

まちのおくゆき ～ことばとからだの温泉ダンスワークショップ～

受講生 17 名が、7 回にわたる講座受講を経て、「山形ビエンナーレ」(2024 年 9 月 1 日～16 日)の蔵王温泉エリアにて、ダンスパフォーマンス「ひとひのパレード～茂吉と空と女将のうた～」を実施した。障がいなどの多様性のある受講生環境のなか、地域理解・他者理解・多様性をふまえた創造的取組のあり方についての形を作り上げた。



【③エキシビション】

現代山形考 一山とうたうー「忘れられた歴史の記憶を掘り起こす」

受講生 11 名が、3 回にわたる講座受講と蔵王でのフィールドワークの成果を活かした創作を行うとともに、「山形ビエンナーレ」(2024 年 9 月 1 日～16 日)の「現代山形考～山はうたうー」(東北芸術工科大学)において自作の展示を行い、実践的な学びの成果を発表した。また、芸術祭開催中、公開講座トークイベント「忘れられた歴史の記憶を掘り起こす」も行った。



【④ツーリズム】

「ざおうラジオ ～トレッキング&ヒアリング～」蔵王を舞台にした、ツーリズムラジオコンテンツの制作

受講生 11 名が、3 回にわたる講座受講を経て、地域資源の理解やそれらを活かした音声コンテンツの企画検討、フィールドワーク、コンテンツ制作を行い、「山形ビエンナーレ」(2024 年 9 月 1 日～16 日)に際して、web メディア (Spotify、YouTube) での配信を行った。ビエンナーレ終了後も活動・配信は継続され、受講生は地域資源を活かした新たなコンテンツの制作について実践的に学んだ。



写真:三浦晴子

今後の実施予定 (将来展望)

今年度の人材育成講座で実践した、フィールドワーク等による「温泉地独自の地域資源」のリサーチ→講義やディスカッションによる「地域資源理解の深化と発想展開」→「創作活動」→「個人やグループによる発表」というプロセスについて検証するとともに、他地域での適用・応用の可能性を模索する。とくに、「地域資源理解の深化」の手法と、「地域における芸術的創作の発表機会や場の創出」の手法について、さらなる検討を加える。また、訪れる人々の心身の健康回復プログラムについて、より良いメニューの構築を模索する。長期的には、「アート&ウェルビーイング」概念の体系化と実社会での普及活動を通して、「アート&ウェルビーイング」の活動が地域資源化していくことを目指す。

制作したビジュアル・イメージ・印刷物・WEB

山形ビエンナーレ2024 in 蔵王
2024年9月1日(日)～16日(月・祝)
蔵王温泉 東北芸術工科大学

山形ビエンナーレ 2024 公式 WEB サイト

現代山形考 イメージビジュアル

山形考 現代山形考

ひとひのうた イメージビジュアル
【キュレーションの MATERIAL】
まちのおくゆき

ざおうラジオ

現代山形考リーフレット
デザイン:アイハラケンジ
原画:後藤拓朗

ざおうラジオ WEB

デザイン:杉の下意匠室
ざおうラジオ DM

講師陣

【①総合キュレーション】

- 講師:岡安賢一(ビデオグラファー/合同会社岡安映像デザイン)、菅啓次郎(詩人/明治大学教授)、平野篤史(デザイナー/AFFORDANCE)、大和由佳(アーティスト)
- コーディネーター:小金沢智(キュレーター/本学専任講師)

【②アールブリュット】

- 講師:砂連尾理(振付家・ダンサー/立教大学教授)、菊地将晃(ダンサー)、佐藤有華(ダンサー) ほか
- コーディネーター:アイハラケンジ(アートディレクター/グラフィックデザイナー)
- アシスタントコーディネーター:三浦晴子(フォトグラファー/キュレーター)、武田和恵(福祉とアートのコーディネーター/やまがたアートサポートセンター ら・ら・ら)、若中可南子(アートコーディネーター)

【③エキシビション】

- 講師:岡崎裕美子(歌人)、中崎透(美術家)、永岡大輔(アーティスト) ほか
- コーディネーター:三瀬夏之介(画家・キュレーター/本学教授)、宮本晶朗(修復家・キュレーター/本学准教授)

【④ツーリズム】

- 講師:鈴木伸夫(編集者・ライター/gattal)、那須ミノル(編集者・ライター/リアルローカル山形)、井上春香(編集者・ライター/リアルローカル山形) ほか
- コーディネーター:アイハラケンジ(アートディレクター/グラフィックデザイナー)